

Rikkyo Club of Executives & Professionals 立教経済人クラブ

発行所：立教経済人クラブ 発行人：和田成史 編集人：徳澄範光 事務局：TEL.03-3985-3135 <http://www.r-keizaijin.net/>

2013年度 新春名刺交換会



2013年1月30日(水)、毎年恒例となる「新春名刺交換会」が日比谷松本楼にて開催されました。

18時より開会した第一部の講演会では、日本経済新聞社 論説委員 兼 産業部編集委員の関口和一樣より、「グローバル経済に挑む日本のIT戦略」と題して、世界のIT動向や、今後の方向性や可能性について約50分にわたりお話いただきました。(講演の詳細は3面をご覧ください)

第二部は、会場を移し「新春名刺交換会」を19時より開宴しました。当日は、100名以上の会員に加え、立教学院理事長 糸魚川順様、立教大学総長 吉岡知哉様、経済学部長 池上岳彦様をはじめ、経済学部、法学部から教授の方々、学院関係職員の方々、校友会副会長 小出康之様、マスコミ立教会など15名のご来賓をお招きして盛大に開催されました。

冒頭、和田成史立教経済人クラブ会長より、政権が変わり世の中が回復傾向にあるなか、しっかりと政策を実現してもらうことを期待している。こうした中、当経済人クラブも日本と同様発展していき、大学への貢献を行い、関係を強化していくため絆をさらに深くしていきましようとの挨拶をいただきました。

続いて、ご来賓を代表して、立教大学総長 吉岡知哉様より、経済がリーマンショックや、東日本大震災の混乱からようやく抜け出しつつある状況のなか、立教大学も持ち前の立教らしさである、応用力と勇気をもって発展しているとのお話がありました。また、池袋キャンパスに昨年、新図書館「ロイドホール」が完成し多くの学生でにぎわっていること、今後、池袋キャンパスには新体育館、新チャペル会館が竣工予定である旨お話

いただきました。次に、立教学院理事長 糸魚川順様が続いてご挨拶され、地域立教会でのエピソードなどをご紹介され、立教の魅力を改めて感じたこと等をお話いただきました。

続いて、司会の桑本淳子総務委員よりご来賓の方々をご紹介させていただいたのち、新入会員の紹介と記念撮影が行われました。今回は10名もの新入会員を迎えることができました。その後、校友会副会長 小出康之様より乾杯のご発声を頂き、宴がスタートしました。

歓談の時間には、新入会員をはじめ、幅広い世代の校友が名刺交換を通して人脈を広げ、久しぶりに会う同級生、先輩後輩が最近の動向や学生時代の懐かしい話に加えて、松本楼の美味しい食事とお酒により会場は終始盛り上がっていました。特に最近では、SNS等のアドレスの交換なども頻繁に行われている様子で会員同士の交流がより深まっていたようですが、最後に上原洋一立教経済人クラブ副会長のご挨拶を持って、大学の益々の発展と会員企業の隆盛、各位の健勝を願いながら閉会いたしました。

一品川 高穂 H8経一



2012年度クリスマス会

12月4日ちょっと早い「立教経済人クラブクリスマスの集い」を開催いたしました。

新装なった東京アメリカンクラブでの開催ということで、参加者は会員36名、ゲスト37名合計73名と盛況となりました。立教らしく佐藤チャブレン長によるクリスマスのお祈りからはじまりました。司会は平成22年卒業、入会したての小田切さんをお願いしました。

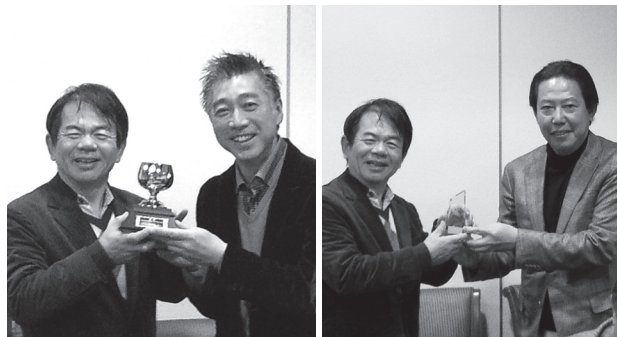
TACご自慢のおいしい料理、そして立教大学ビッグバンドクラブ New Swingin' Herd によるジャズの演奏、そして当クラブ運営委員会で話題の美人三姉妹(昆、井関、庄司さん)の司会によるビンゴ大会で大変和やかな雰囲気の中で進行了しました。

ビンゴ大会のプレゼンターには来年4月に立教小学校に入学が決まっている大屋さんのご長男をお願いしました。(頑張ってくれました!)お帰りに皆様にお渡しした10年ダイアリーは富澤麻利子会員からのご協賛でした。

皆様のご協力で素敵な「クリスマス会」ができましたことを感謝申し上げます。

ありがとうございました。

—山田 晴久 S56法—



第62回 立教経済人クラブゴルフ会

平成24年12月9日、立教経済人クラブゴルフ会が開催されました。

今回は和田会長のホームコース、名門のよみうりゴルフ倶楽部です。お天気にも恵まれ、さあ、インからスタートです!距離はそんなにはないのですがフェアウェイは若干狭く、グリーンがとても速い設定でした。この速さ(特に下り)に合わせられれば、スコアを伸ばす事が出来ます。アウトは雰囲気が変わって広くゆったりとしています、距離もたっぷりあるコースです。そしてグリーンは相変わらず速いですから、なかなかスコアが伸びません。ほとんどの方がインの方がスコアが良かったのはそのためでしょう。後からキャディマスター室でお聞きしましたところ、東京よみうりCCでのトーナメントの時と同じ早さのセッティングだったそうです!

さて、優勝ですが私、長倉がしてしまいました。アウト 43,イン 41 の84で、ネット 70 でした。和田会長より初めて優勝カップを頂きました。自分でいろいろなカップの中から選びましたので、喜びもひとしおです。準優勝は、アウト 40,イン 38 の78!で、ネット71 の若山 晶氏でした。和田会長よりクリスタル製盾が授与されました。もちろんベスグロです。

皆様は景品をお選びになり、和やかな雰囲気の懇談の中、最後に恒例の記念撮影にてお開きになりました。

秋の会はいつも参加メンバーが少なく寂しいのですが、今回は18名のご参加を頂きました。ありがとうございました。次回は7月後半を予定しております。宜しくお願いします。

—長倉 一裕 S59法—

タウンクラブ

11月21日にホテルオークラのオーキッドバーにて恒例のタウンクラブが開催されました。

巷の喧騒を離れ、ゆったりとしたスペースの中で、会員相互の交流を図ることができました。仕事の話、学校の話、お友達の近況など会話がはずみ、あっという間に時間が過ぎていきました。タウンクラブは、大きな会ではなかなかお話ができない会員の皆様に、ゆっくりと交流を図っていただくために、年に2回ホテルオークラのオーキッドバーで開催しております。予約なしでも気軽にぶらりと立ち寄っていただけますので今回いらっしゃらなかった方も、ぜひ次回ご参加ください。また年に2回は、隠れたグルメスポットを探索するグルメ会も実施しております。こちらも振るってご参加ください。

—昆 凡子 S54仏—



『グローバル経済に挑む日本のIT戦略』

日本経済新聞社 論説委員 兼 産業部編集委員 関口和一氏



- アメリカのIT系企業のプレゼンスが増す中で日系企業はどうあるべきか、コンシューマーエレクトロニクスショーの展示からヒントを得たい。

同展示会の基調講演は以前のマイクロソフトから携帯電話向けチップ製造の最大手クアルコム社へと代わり、まさにパソコンから携帯へという時代の流れを表していた。

- パソコンからタブレット、スマホが主流となる中で日系携帯電話メーカーは2007年の販売台数5,000万台をピークに漸減し2009年には3,000万台を切り、今ではすっかり日本市場は海外メーカーに駆逐されてしまった。

- 黒物家電でも日本勢の劣勢が明らかになっており、サムソン・LGに日本のTV市場も駆逐されてしまうだろう。

事実サムソンはスマートTVで先行しており、手の動きでカーソルを動かせる操作性の良さとサムソンクラウドに情報を蓄積できる優れたサービスもある。

- 世界最大の携帯電話見本市ではサムソンとファーウェイが中心的存在で、ドコモは小さなブースしか出していなかった。

中国ファーウェイ社は設立からわずか25年で世界一の通信機器メーカーとなった。ファーウェイ社は2万円を切るスマホ、1万円以下のタブレットの低価格戦略でシェアを拡大している。

このように世界の展示会、量販店では日系メー

カーのプレゼンスはますます小さくなるばかりだ。

ハノーバーのCebit展に出展する395社のうち台湾系は153社、日系は僅か6社という寂しさである。

- ロンドンオリンピックは3D放送が本格化され、毎秒100GBの回線を装備して8万人収容のスタジアム内で16千人が無線LANを利用でき、BBCが26競技をリアルタイムにストリーミングするなどITを活用した画期的なオリンピックだった。

- 実はモバイル決済の導入ランキングでケニアが世界第4位にランキングされている。これはソーラーパネルで基地局の充電を行い、携帯ショップが銀行機能を果たしているからである。

また東日本大震災の時にも活用されたとある地図アプリは、ケニアのオープンソースをベースに作られたもので、現在では世界で2万アプリに活用されている。このことから情報未開の国こそ新しい技術が流入しやすいことが分かると思う。

- 中東のジャスミン革命のきっかけは「ウィキリークス」であった。というのも、ウィキリークスを通じて米国が専制国家を批判する公電が明らかとなり、これがソーシャルメディアで拡散して大きなうねりとなったのである。つまり、携帯50億台、ネット20億人が相互に繋がりが合って第五の権力が生まれ、国の仕組みを変えるところまできているのだ。

- IT分野における7つのトレンド=クラウドコン

ピューティング、スマホ、タブレット、ソーシャルメディア、デジタルサイネージ、スマートTV、ビッグデータ

ITのパラダイムシフトが加速しており、データセンターに預けて軽微な端末で足りるようになってしまった。

また現実世界と仮想世界が融合する動きが起こっている。例えば、米ステラモーターズ社製の自動車はリチウムイオン電池・電気モーターと17インチインパネを搭載している。充電データはクラウドで管理しており、手元のスマホで把握、操作できる。

- 以上のような状況を踏まえ、日本は政治的なリーダーシップでIT戦略に本格的に取り組んでいくべきである。またクラウド時代に必要な情報の洗い出しと評価、棚卸による情報資産のデジタル化を並行して行わねばならない。

合わせて経営トップ層の意識改革も欠かせない。情報は隠すものではなく広く皆で利用するものと考え方を改め、過保護政策による高コスト構造から決別する必要がある。具体的には①クラウド環境と社内の機密情報の使い分け、②前提となるクラウドに対応した法規制の見直し(著作権法の規制緩和)、③若者の才能や感覚を生かすことだ。最後にジムクラークの言葉を紹介したい「成功の秘訣は自分よりも若くて、自分よりも頭のよい人物と組むことだ」。

—桑本 淳子 H8法—

立教大学の今

「立教大学の今」をテーマに大学関係者の方々にお話を伺う企画、第5弾。

今回は、立教大学キャリアセンターの皆さまに学生の就職活動の現状と大学の取り組みについて伺いました。

立教大学のキャリア支援

キャリアセンター部長
経営学部教授 石川 淳

就職部を改組して、2002年4月に発足した本学のキャリアセンターは、就職活動時期を迎えた学生だけに限定せず、1年生から学生のキャリア形成が進むよう全学年の学生に働きかけをしています。私たちは「キャリア」を「仕事・就職を含めた自立した個人としての自分らしい人生のあり方」ととらえ、社会との関わりの中から、学生一人ひとりが自分自身の生き方・働き方を考えられるよう、インターンシップをはじめさまざまな成長の機会を提供しています。

「キャリア支援課」と「就職支援課」の2課体制で推進する本学のキャリア支援をご紹介します。

学内外と協働して進める キャリア支援

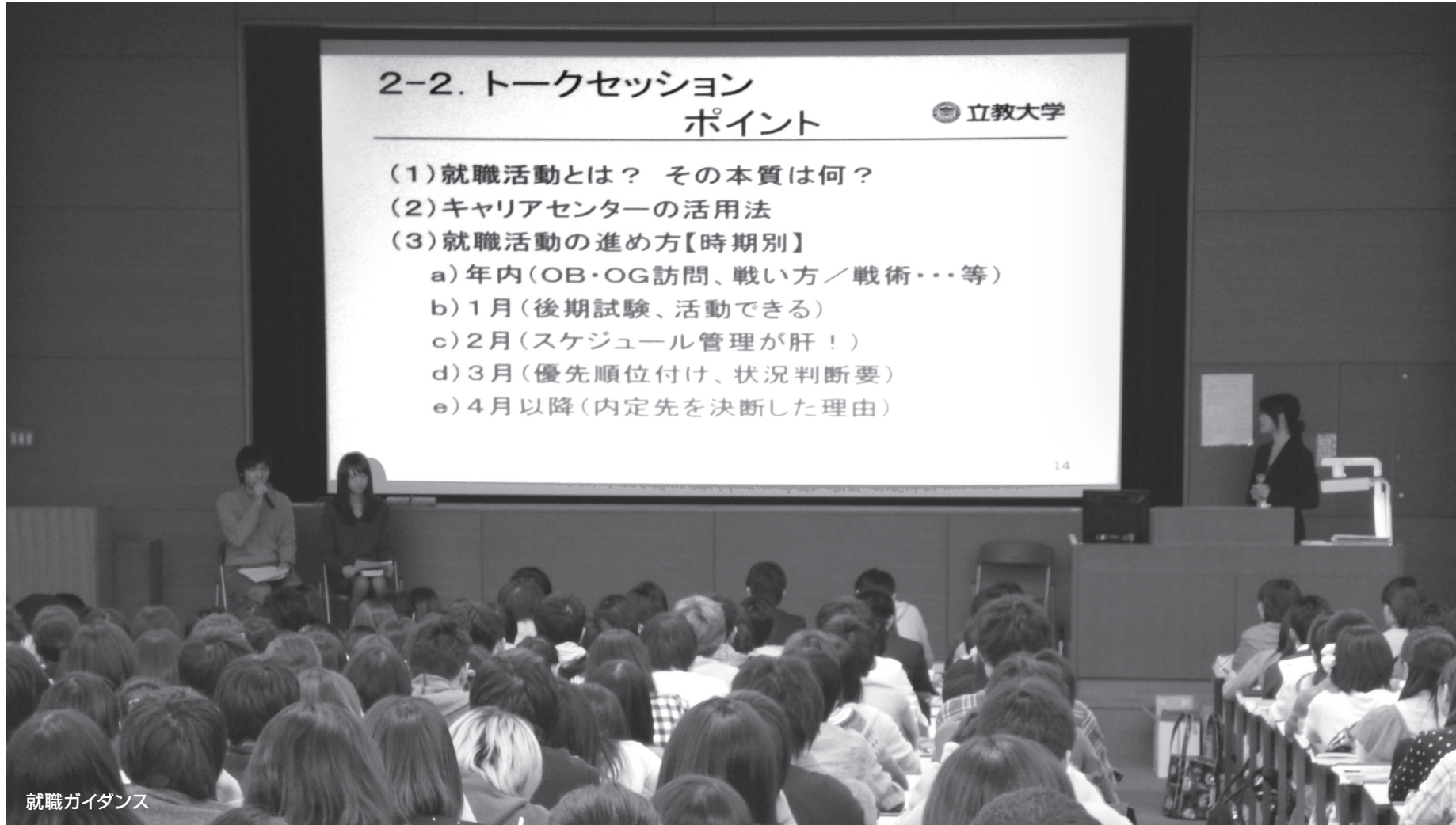
キャリアセンターキャリア支援課長
佐藤一宏

本学のめざすキャリア支援は、学生の職業意識、就業意識を喚起し、早めに就職支援を行うということではありません。大学生生活でめざされるべきは、学生が生きる目標を見つけ、社会へ適応する力を身につけることです。私たちキャリア支援課の使命は、本学のキャリア支援の考え方に基きながら、学生への働きかけを積極的に行うことにあります。中でも、1・2年生のキャリア発達に向けた支援に力を注ぎ、学部や学生支援部局、企業などとも協働しながら充実した展開を目指します。

入学直後には、新入生全員を対象に「キャリアデザインガイダンス」を学部ごとに実施し、大学4年間を含めた今後の長いキャリアを継続的に考える最初のきっかけを提供しています。

「立教時間」という学生専用のウェブサイトを通じ、目標やふりかえり、学生生活の記録などを4年間の時間軸に沿って記録することを通して、自らの成長や変化に気づくことができ、就職活動をする際にも活かせる仕組みを学生に提供しています。

また、派遣実習先(企業・団体・自治体)が90社以上に及ぶ就業体験プログラム「立教型インターンシップ」は、実習前から実習後まで研修や報告会等を実施し、学生が自身の変化や成長、



就職ガイダンス

強みや課題などを具体的に把握することができるよう事前・事後の研修は工夫されています。

昨今、学生が社会(社会人)を通して学ぶ機会を提供することが、キャリア支援の課題の一つとなっていますが、キャリアセンターでは、社会の第一線で活躍中の多彩な講師によるプレゼンテーションやダイバーシティや女性就労支援に積極的に取り組んでいる企業を取り上げています。男女が協働する生き方や仕事を通じての社会参画について理解を深めることを目的とした授業「女性就労とワーク・ライフ・バランス」などの開講・実施サポートのほかにも「働く女性との交流プログラム」や「企業見学・訪問会」等、多様なプログラムを企画・実施しています。

近年は、先に述べたキャリア支援の考え方が学内に拡がり、各学部・研究科が「キャリア関連科目」やインターンシップ科目を開講するなど学部が主体となったキャリア支援が展開されるようになっていきます。キャリア支援課では、こうした動きにも連動し、学部への協力・連携を積極的に働きかけ、授業協力などを行うことにも力を注いでいます。

このように正課教育と正課外教育、社会(企業や団体等)との有機的な連携の中で、本学のキャリア支援は展開されています。

3年生向け就職支援

キャリアセンター就職支援課
西澤朋泰

3年生への就職支援で大切にしていることは、学生がまず「自己」と「相手」を知り、主体的にかつ段階を踏んで成長していける機会を提供することです。具体的には、「就職ガイダンス」、「ステップアップ講座」、「個人相談」の3つの柱を有機的に作用させてプログラムを展開しています。

▶就職活動のポイントを理解させる

就職ガイダンス

支援の柱となる「就職ガイダンス」では、時期に合わせて学生に取り組むべき課題を伝えていきます。例えば、5月のガイダンスではインターンシップへの参加を見据えた内容とし、10月には業界・企業研究の目的を理解する内容へと移っていきます。

業生を招いての「学内OB・OG訪問会」を計5回実施し、身近な社会人との接点を通じて多くの気づきが得られる機会を提供しています。さらに12月以降には、立教生への採用意欲が高い約450社による「学内合同企業説明会」を計41日間にわたり開催しており、これをきっかけに、例年多くの学生が内定にまで結びついている状況です。また、選考の難易度が高いグローバル企業を目指す学生向けには、「総合商社勉強会」と「グローバル企業勉強会」を卒業生や内定者との連携を強化しながら実施しています。

▶経験豊富なスタッフによる個人相談

一方、「個人相談」では、プログラムでの対応が難しい学生一人ひとりの悩みや不安に応えています。ここでは、キャリアカウンセラーの資格を有する経験豊富なスタッフが、共に考えを整理したり、見失いがちな視点を補ったり、学生の自走を促す情報提供などを行っています。

4年生向け就職支援

キャリアセンター就職支援課
堺 茂樹

4年生への就職支援で大切にしていることは、支援を必要としている学生を早期に把握し、必要な支援を提供することで、学生一人ひとりを進路決定に結びつけることです。そのため、3年生支援の流れを継承しつつ、さらに、進路把握調査と、学生と企業とのマッチングにも力を注いでいます。

▶活動継続学生の早期把握をめざす

進路把握調査

例年、就職希望者の40～50%は4月から5月にかけて内定を得て進路を決定しますが、そのほかの

学生は、6月以降も就職活動を継続することになります。そのため、就職活動を継続している学生をいかに早期に把握して、私たちの支援につなげるかが大変重要になってきます。本学では、立教生のための就職情報サイト「立教就職Navi」に学生本人が報告することで、現在の活動状況や進路決定先を把握します。そのため、学生本人へのメールやハガキの送付、電話かけのほか、保護者の方への封書の送付、所属学部やゼミの教員を通じて、「立教就職Navi」への入力促進と進路状況の把握に努めています。

▶学生の課題見極めと企業との

マッチングの強化

4年生支援では、とくに「合同企業説明会」や「面接実践」など、実効性の高い実践プログラムを展開しています。また、学生自身が活動の成果を出していくためには、これまでの就職活動を振り返り、今後の活動指針をたて、うまくいかなかった点を修正していく必要があります。「個人相談」はそうした振り返りや企業情報提供の機会にもなっています。

また、私たちは、企業と大学との情報交換会に参加したり企業訪問を行うなど、企業との関係構築と求人情報の収集に努めており、個別の学生紹介求人を獲得するなどの成果もあげています。

このようにキャリアセンターは、学生の状態を引き上げ、企業情報と求人情報を把握し、「合同企業説明会」や「個人相談」等を通じて両者のマッチングを図るための機能を果たしています。

▶新卒応援ハローワークとの連携

国をあげての若者の就職支援が進む中、本学も東京新卒応援ハローワークと連携し学生支援に取り組んでいます。とくに、東京都等主催の「合同面接会」での動き方を事前に考える「求人票のチェックポイント」講座、新卒応援ハローワークの利用方法を知る「ハローワーク説明会」等のプログラムを本学との協力のもとで展開しているほか、第2のキャリアセンターとしての機能や、様々な理由でキャリアセンターに来ることができない学生のセーフティーネット的な役割も果たしています。



働く女性との交流プログラム

一品川 高穂 H8経一



企業見学・訪問会

2012年度サマーインターンシップ実施報告(2)

経済学部では、授業「インターンシップ」を開講しております。夏休みを利用したのインターンの受け入れは2005年以降、今年度で7年目となりました。今年度も多くの企業様に受け入れていただきました。

そこで、今号では前号に引き続き、産学連携委員長の上小牧政章氏(H17院ビ)が各企業様に行っていただきましたインタビューと派遣された学生へのアンケートを掲載させていただきます。

(株)プラン・ドゥ様

●ご担当の代表取締役 杉山浩一様への インタビュー



—インターンシップは何時からですか？

今年で3回目です。

—きっかけは？

立教SB会の方からの紹介です。

—受け入れた学生にはどのような業務を依頼しましたか？

会社の勉強が多かったと思います。不動産会社なので飛び込みの営業ではなく名刺を持って同行営業したり、リーシングという当社が管理している物件を借りたいという人がいれば紹介していただきと取引のある不動産会社に案内する業務だとか、やはり当社が管理している物件を見に行って空気の入替えや周りの状況確認をし、レポートを書いてもらいました。ですので実際の業務というより、研修というイメージです。

—感想は？

初めに来た時よりは、社会人との接し方だとかビジネスマナーはかなり上達したかと思います。そして何よりも、今回お見えになった方は貪欲な方で、この2週間で学びたいことが明確でした。それを達成するためにこのような社内の方を紹介して下さいと、毎回違う社内の人間と本人の希望でランチをしていました。

私のところにも本人が直接申し出てきました。そのランチの時に驚いたことに質問事項もきちんと用意されていて私の発言もメモをしていました。色々な角度からの質問攻めで一生懸命な姿なのできちんと答えなくてはと思いこちらとしても勉強になりました。

—最後に御社のPRを？

「不動産にかかわるすべての人に幸せを」をモットーに、特に富裕層向けの投資物件を扱い、確固たる地位を築いてまいりました。いろいろ相談に応じることができます。ご興味がある方は是非ご一報を。

●派遣された経済政策学科3年 青木若菜さんのアンケート

①インターンシップ実習前の印象や期待など
印象：社会人はとにかく忙しそう。実際に行くまで

にはうまく職場の人たちとなじめるかなど不安もあった。

期待：インターンシップを通して社会人の生活や会社の仕組みなどについて直に知りたい。自分に足りていないものを知りたい。

②インターンシップ実習後の感想

社会人の人たちの仕事に対する責任感やモチベーションは学生にはないものだと感じ、尊敬の念を抱いた。会社という組織が色々な職種の人たちによって運営されていることがよくわかった。

③今後インターンシップを受講しようとする学生、あるいは受け入れ先企業へ一言

学生へ：実際に社会に出る前にインターンとして企業をのぞくことができたのは、自分が今後の人生でどう働きたいのかなどを具体的に考えるきっかけになり、とても参考になったので是非機会があれば積極的に参加してみしてほしい。

企業へ：お忙しい中インターン生を受け入れてくださってとても感謝しております。学生にとってインターンの経験はとても貴重なものです。そして、私がお邪魔した企業では、学生である私が社員の方々に働くことや今後の夢などについてたくさん質問させていただいたことで、初心を思い出した、といったようなことを言っていました。それを聞いて、インターンシップが学生にとっても社会人の方にとってもプラスに作用するものであったら素敵だなと思いました。

(株)マベリックトランスナショナル様

●ご担当の代表取締役 平山浩一郎様への インタビュー



—私ども立教大学の学生を受け入れるインターンシップはどのような経緯で行うことになったのでしょうか？

私は立教のOBではないのですが、昔からよくして頂いている立教大学出身の中島様からインターンシップを受け入れてみないか？という話があったのがきっかけです。というのも中島様が従来積極的に受け入れていたのですが、今年は事情があり、困難なこともありその話がこちらに紹介があったという経緯です。そして、私どもも初めて大学生のインターンシップということになりました。

—受け入れた学生にはどのような業務を依頼しましたか？

弊社はコンサルティング会社です。一つの事業として、企業の社員の健康向けのプログラムを行っています。その中でイベントもあれば調査もあ

り、結構多岐に渡っています。たまたま健康保険組合連合会主催のイベントがあり、健康のチェックをするイベントの企画・運営その資料づくりや健康に関するアンケート調査もあり、その結果の入力をしてもらったり、その資料を持って各企業に訪問したりしていただいた2週間でした。

—その資料づくりはこのようなものをと具体的に指示して作成をさせたのでしょうか？

今回来て頂いた方は、大まかな概要を伝えると積極的に自分で考えて資料などを作っていました。

—学生の印象は如何だったでしょうか？

初め教授とお見えになった時は、何か緊張をしていたような気がしましたが、実際インターンシップが始まってからは、リラックスして業務を行っていました。

●派遣された会計ファイナンス学科3年 池田規沙さんのアンケート

①インターンシップ実習前の印象や期待など
インターンでは、今まで自分がしていたアルバイトの学生としてではなく、大学側から紹介をして

もらい企業の社員の一人として責任を持った行動が求められると思っていました。その為に、自分も自覚を持った行動をしなければならないと、自分に言い聞かせていました。

②インターンシップ実習後の感想

実際にインターンが始まってみると、本当に社員の一人のように仕事を割り振っていただき、お仕事をさせていただきました。大人の方々に混ざって自分の資料で会議をしている光景を見たり、自分の仕事の不備を指摘されるたび、もっともっといろんな経験をしたり、知識をつけたいと思うようになりました。そして何より、多くの方々にお会いして自分の意見を上手く伝える事の難しさを知り、今まで気付かなかった自分の欠点を把握する事が出来ました。

③今後インターンシップを受講しようとする学生、あるいは受け入れ先企業へ一言

この度は、インターン実習をさせて頂きありがとうございました。資料作りやイベント参加、営業同行など多くの事を経験させて頂きありがとうございました。そしてなにより流動的に常に動いている仕事を間近に見る事が出来た事で、仕事の面白さを感じる事が出来ました。平山社長はじめ、竹内様、取引先企業様の多くの方に心から感謝申し上げます。貴重な体験をさせて頂き、本当にありがとうございました。

—吉原 伸隆 H4営—

立教ビジネススクール(RBS)と私 ～ピンチをチャンスへ～

杉山 純子
株式会社日本空港コンサルタンツ 研究員
2011年 立教大学大学院ビジネスデザイン研究科修了

RBSで執筆した修士論文をベースに2012年に刊行された書籍。『いま話題の格安航空会社(LCC)がなぜ世界の空を席卷しているのか。JALとANAの2大勢力が君臨する日本の空で果たして成功するのか、といったLCCに関する素朴な疑問に理論的かつわかりやすく答えてくれる格好の解説書』(産経新聞書評より)



キャリアアップを夢見てRBSへ

私は、空港に特化したコンサルティング会社に勤務し、官公庁をクライアントとして航空政策に関するリサーチ、研究を行ってきた。

しかし、公共事業の縮小で部署の業績は右肩下がり。日本の空港がハードの整備から、サービスや運営効率などのソフト重視に変わりつつある転換期にあり、これからの業務にはマーケティングや競争戦略、ファイナンスなどの幅広いビジネス思考が不可欠になりつつあるのに、会社の体質は昔ながら技術屋体質。男性社員に囲まれて残業ばかりの日々を送る中で、自分の今後のキャリアや会社の将来に閉塞感を感じていた。

そこで自分らしい強みや専門性を身につけてコンサルティングを行いたいと思い、立教大学大学院ビジネスデザイン研究科(BRS)で学ぶことに決めた。RBSでは、バラエティに富んだカリキュラム、年齢も業種も異なる同期生に恵まれ、久しぶりの学生生活は非常に充実していた。

会社の同僚たちには、RBSへの通学を黙っていた。MBA取得を目指しているということで、周囲から求められるハードルが高くなってしまうのが何となく怖かったのが理由である。会社に黙って仕事と学業の二足のわらじ。残業する同僚を横目にひっそりと職場を後にして、立教へ。時には夜間の授業が9時半過ぎに終わり、そのままオフィスに戻って仕事の続き。多忙ではあったものの、RBSで学んだことをすぐに業務で活かすことができ、やりがいを感じていた。

修了要件である修士論文は、海外で勢力を伸ばしつつある格安航空会社(LCC)を題材に選んだ。タイムマネジメントの甘さにより図らずも留年し、執筆には人より多く2年をかけてしまったが、優秀論文賞というご褒美をいただき、留年も帳消し気分であった。

突然の介護生活

2011年3月、無事に大学院を修了することができ、さて次のステップをどうしようかと考え始めたところだった。せっかく取得したMBAを活かして異業種に転職、というバラ色の未来を描こうとした矢先。

実家の母が突然倒れた。7割は死に至るというのも膜下出血の最重症例。

父が既に他界している実家では、母が瀕死の病状で入院したことで90歳の祖母がたった一人で取り残された。その日から、東京での仕事と故郷静岡で看病・介護という先の見えない二重生活が始まった。遠距離介護、母・祖母のダブル介護、三十路独り身のシングル介護(力を合わせるべき兄弟とは、介護早々に協力関係が破綻していた)。突然降りかかった不幸を嘆く余裕すらなく、仕事、残業、休日出勤、介護、実家の切り盛り、東京～静岡間の移動…を必死にこなす日々。

そんな私を、職場の上司、同僚は非常に協力的にサポートしてくれた。それでも、介護のために仕事に穴をあける申し訳なさ。ふと思い立って、RBSで執筆した修士論文を、同僚たちに送信してみた。「会社に黙って大学院に通い執筆した論文です。駄文ですが皆さんが業務でレポート作成する際に、自由に引用して必要なデータを利用してください。」と。介護生活で迷惑をかけながら仕事を続けることに對して、少しでも埋め合わせをできれば、との思いからだった。

それを知った社長が、ひょんなことから私の論文をダメもとで出版社に持ち込んだ。持ち込み原稿が出版に辿りつくことは稀だと聞くが、なんと門をたたいた1社目の出版社で出版話がまとまった。私の格安航空会社に関する研究が、ちょうど日本における格安航空ブームのタイミングと重なったことが幸運であった。そこからは、仕事、遠距離介護に、出版に向けた編集校正作業も加わり、さらに忙しい日々が続いた。

出版と転機

論文は『LCCが拓く航空市場 - 格安航空会社の成長戦略-』として、2012年4月18日に出版された。偶然にも、母が倒れてからちょうど1年後にあたる日付であった。一命を取り留めたものの後遺症が残る母が、どれだけ私の出版を理解しているかはわからないけれど。

本を出版してから、仕事に変化が現れ始め、様々な新たな出会いにも恵まれるようになった。本は私の知らないうちに名刺となって世の中に

出回ったようで、いつの間にか私は格安航空研究の専門家になっているらしかった。取材や原稿執筆依頼の電話が突然かかってくるようになった。講演、セミナーのお招きもいただくようになった。某全国紙には書評を掲載していただいた。

職場に鬱屈した気持ちを抱えて、将来のキャリアチェンジを夢想しながら黙って大学院に通っていたというのに、RBSで執筆した論文が介護でピンチに陥った私を救い、そして職場で新たな立ち位置ができた。ビギナーズラックとしか考えられないが、初めて出版したこの本は住田航空奨励賞という賞を受賞するというおまけまで付いてきた。

振り返って

論理的で説得力のある議論ができるわけでもなく、リーダーシップも商才もない私は、今でもビジネススクール卒のMBAホルダーと名乗ることは、気恥ずかしくてなかなかできない。それでも、業務で感じていた問題意識を解決したいとRBSで学んできたことが実を結び、淡々と執筆をつづけた論文が書籍となり、突然の介護生活というピンチを救うことになった。

「人生なにかがあるかわからない。」言い古された言葉をしみじみ感じるが、私のピンチをチャンスに変えたのがRBSでの学びである。



杉山 純子
株式会社日本空港コンサルタンツ
研究員

2011年 立教大学大学院ビジネスデザイン研究科修了
外資系航空会社等での勤務を経て現職。
官公庁や地方自治体等による航空政策空港政策立案に向けた各種調査、コンサルティング業務に従事している。

著書
『LCCが拓く航空市場 - 格安航空会社の成長戦略-』

新しく会員に なられた方々

(敬称略)

石坂 美穂

平成2(1990)法

石坂司法書士事務所

代表

171-14 豊島区池袋2-37-2 第2KDビル703

TEL:03-6912-5787

FAX:03-6912-5795

E-Mail:vet06277@aol.com

業種:司法書士業

伊東 龍也

昭和56(1981)営

(株)ゴルフ・ドゥ

代表取締役社長

338-01 さいたま市中央区上落合2-3-1

TEL:048-851-3111

FAX:048-851-3456

E-Mail:t-ito@golfdco.com

URL:http://www.golfdco.jp/

業種:ゴルフ用品の小売・卸売

今井 文彦

昭和51(1976)営

今井保全(株)

代表取締役

170-05 豊島区南大塚3-52-10

TEL:03-3983-4151

FAX:03-3989-8600

E-Mail:fumihozen@cosmos.ocn.ne.jp

業種:ビル賃貸業

大江 啓太郎

平成23(2011)院社デ

(株)MDビジネスパートナー

総合企画部企画グループ調査役

135-42 江東区木場2-17-12

TEL:03-3820-5251

FAX:03-3820-5847

E-Mail:koe@dcs.co.jp

URL:http://www.md-bp.co.jp/

業種:情報サービス、人材派遣

大内 浩

平成10(1998)営

170-13 豊島区東池袋1-31-10ドミール池袋1106

TEL:03-6907-3897

FAX:03-6907-3898

E-Mail:takeuchi@sr-miraiz.jp

URL:http://sr-miraiz.jp/

業種:社会保険労務士業務

醍醐 明彦

昭和53(1978)経

東京海上日動あんしん生命保険(株)

常務取締役

104-61 中央区銀座5-3-16

TEL:03-5537-6599

FAX:03-5537-6603

E-Mail:akihiro.daigo@tmn-anshin.co.jp

URL:http://www.tmn-anshin.co.jp/

業種:生命保険

豊川 竜也

平成9(1997)産

(株)ニューブック

代表取締役社長

354-41 埼玉県入間郡三芳町藤久保1138-1

TEL:049-258-6789

FAX:049-258-8988

E-Mail:tatsuya-t@newbook.co.jp

URL:http://www.new-book.net/

業種:出版物流倉庫

野島 茂朗

平成6(1994)心

絶対合格(有)

代表取締役

160-0022 新宿区新宿5-4-28-103

TEL:03-6662-7305

FAX:03-3358-8128

E-Mail:happypro@nifty.com

業種:デジタルコンテンツ企画、法務、広報コンサル

満木 葉子

平成10(1998)心

(株)ねこぱんち

代表取締役

106-0032 港区六本木3-1-27-226

E-Mail:mitsuki@nekopanchi.jp

URL:http://www.nekopanchi.jp/

業種:PR

山見 真弘

昭和62(1987)産

東通インテレクト(株)

代表取締役

150-0011 渋谷区東1-13-12 コートヒル青山

TEL:03-5778-0977

FAX:03-5778-6844

E-Mail:masa@gcn.co.jp

URL:http://www.gcn.co.jp/

業種:広告(デザイン、プロモーション)

【お詫び 訂正】

前号の新人紹介で、誤りがありましたので、訂正いたします。

古谷 慶介様(平成12営)のお名前を間違えておりました。失礼いたしました。
古家→古谷

2013年度 事業計画書

開催日	事業	場所	参加募集
2013年5月15日	理事会	新橋亭	
2013年5月30日	第33回定期総会	松本楼	(募集)
2013年7月15日	第63回ゴルフ会	場所未定	(募集)
2013年7月	ウェルカムナイト		(募集)
2013年8月	経済学部インターンシップ支援		
2013年9月	他団体交流ゴルフ		(募集)
2013年9月	グルメ会		(募集)
2013年10月24日	朝食勉強会	ザ・ペニンシュラ東京	(募集)
2013年11月5日	理事会	新橋亭	
2013年11月	ウェルカムナイト		(募集)
2013年12月8日	第64回ゴルフ会	場所未定	(募集)
2013年12月10日	クリスマスパーティ	場所未定	(募集)



Facebookで経済人クラブの
グループに参加しよう!

セミナーや新製品の告知、交流の場としてドシドシ投稿して下さい。

立教経済人クラブ ウェブサイト

<http://www.r-keizaijin.net>

立教経済人クラブでの、過去の行事や活動はウェブサイトでご覧頂けます。

編集後記

2月24日『東京マラソン』に幸運にも参加できました。昨今の健康志向、マラソンブームにより当選倍率は10倍にもなります。自身初のフルマラソンでしたが、半年以上かけて準備したせいか無事4時間21分で完走出来ました。走ってみて思った事は、沿道の応援して下さる方、ボランティアの方のホスピタリティの素晴らしさです。さらに都庁、皇居、東京タワー、浅草(スカイツリー)、銀座、ベイエリアと東京観光名所を走るので外国人ランナーはきっと走っていて飽きないだろうなと思いました。大会運営のシステムも良くできていました。日本人のホスピタリティと施設の充実、運営のきめ細かさを考えると、もし東京でオリンピックが開催出来れば必ず成功すると確信致しました。どうか2020年東京オリンピック開催実現に向け、盛り上がっていききたいものです。

—神津 港人 H4営—